



講義録レポート

講義録コード

00-3-14-204-01

講座	簿記検定講座	科目①	アドバンス講義
目標年	2023年11月合格目標	科目②	工原 I
コース	1級レギュラーコース	回数	1回
		通算回数	1回

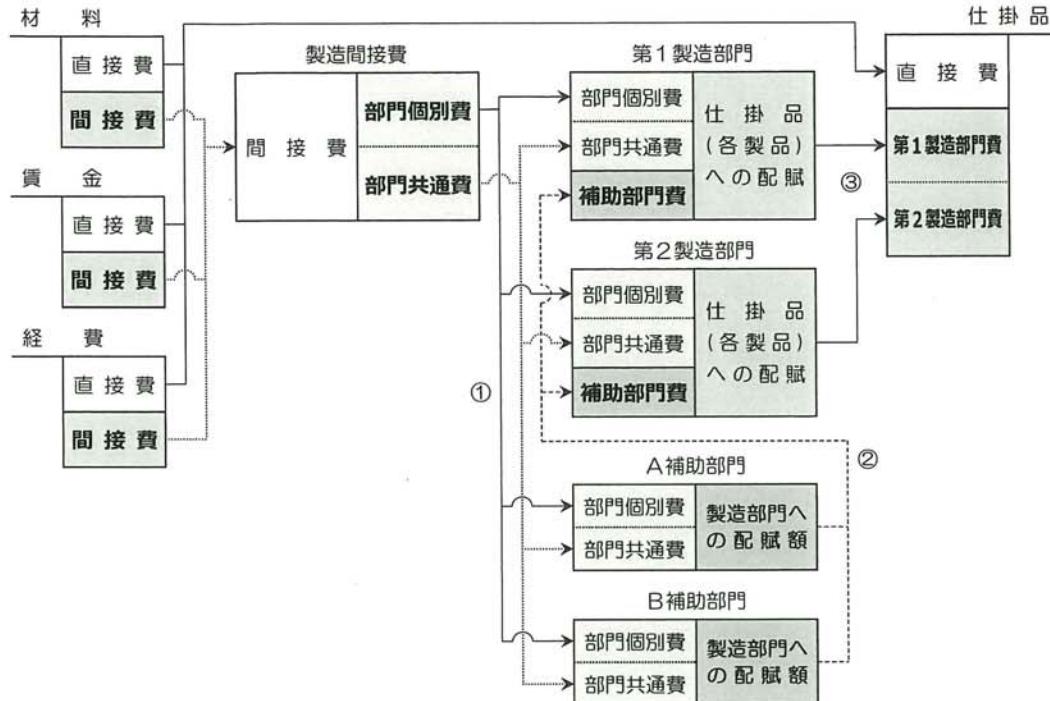
収録日	2023年	6月	12日
講師名	鈴木 隆文 講師	板書枚数	0枚
		補助レジュメ枚数	16枚
		その他()	4枚

講義構成	前半 83分 → 休憩 10分 → 後半 73分		
実施テスト	有 <input checked="" type="radio"/> 無		
対応テスト	<ミニテスト> () 第 回		
	<答練・演習> () 第 回		
●合格テキスト	P. 137 ~ P. 167		
使用教材	●合格トレーニング P. ~ P.		
	●その他 [] P. ~ P.		
配付教材・資料	●教材 (テキスト・問題集) () 講義録添付 (有・無)		
	●補助レジュメ () 16枚 講義録添付 (有・無)		
	●その他 (学習進度表, 正誤表) 4枚 講義録添付 (有・無)		
備考	~DVD・Web受講生各位~ 黒板を写すカメラのスイッチング(切替)は講師が行っている都合上、映像中に一部講師が画面に映らない場合もございますが、故障ではありません。音声及び本講義録をご参照の上、ご受講ください。		

テーマ9 原価の部門別計算(II) (P.137~P.149)

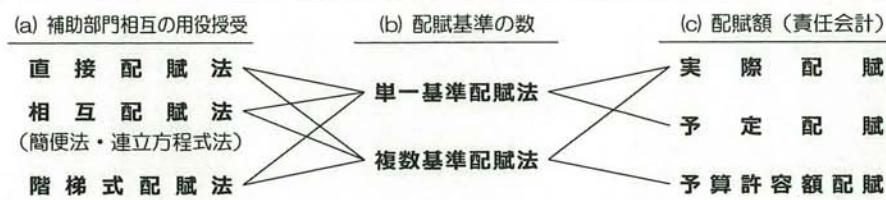
<工原I Advance 第1回>

《部門別計算の手続き》(復習)



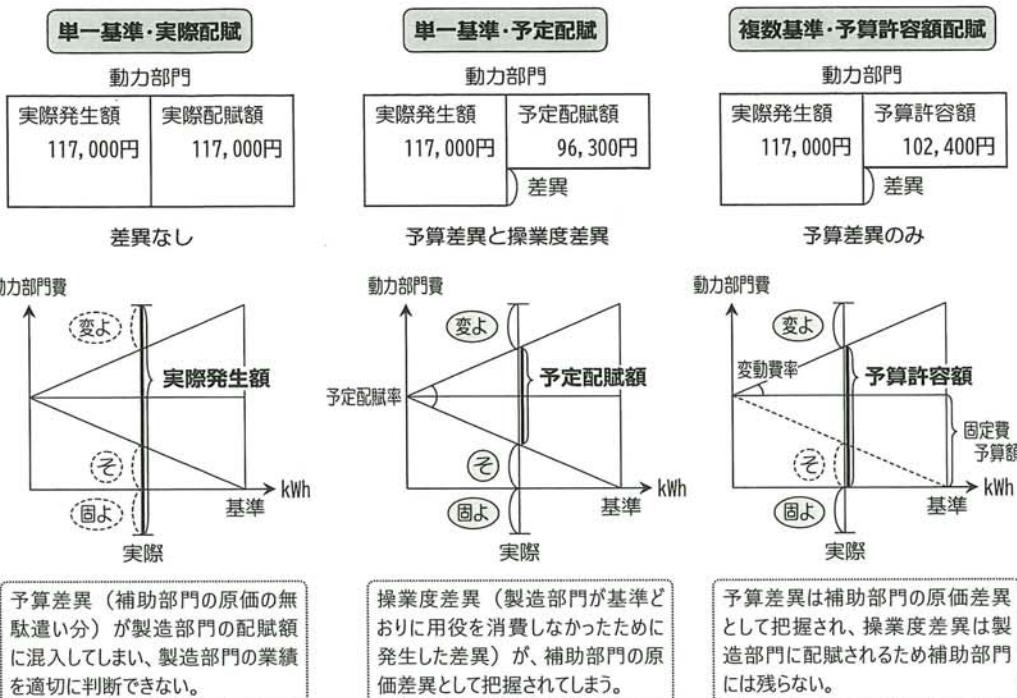
第2次集計の論点

- (a) 補助部門間相互の用役の授受をどのように考えるか？
- (b) 変動費と固定費をそれぞれ別個の配賦基準を使用するかどうか？（配賦基準の数）
- (c) 実際配賦するか、予定配賦するか、予算許容額配賦するか？（配賦額 ⇌ 責任会計）



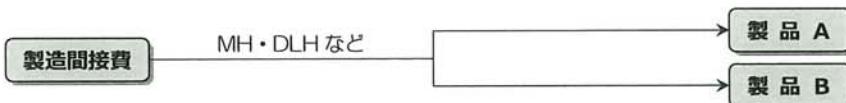
- ③ 製品への配賦 … 製造部門費の各製品（各製造指図書）への配賦 ⇌ 〈原則〉予定配賦

《補助部門費の配賦方法と責任会計》(復習)

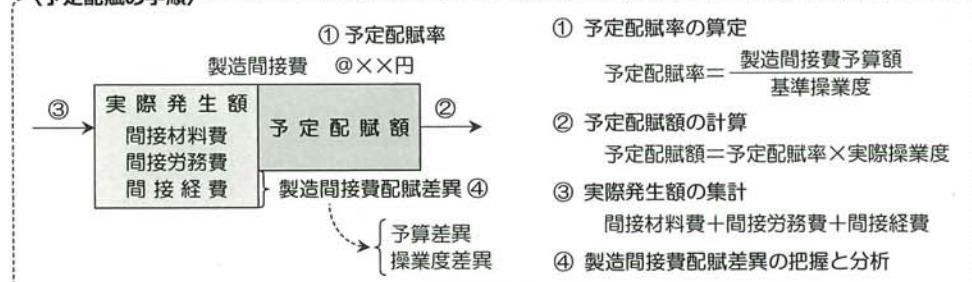


《総括配賦と部門別配賦》

1. 総括配賦 … 製造間接費をひとつの配賦基準で各製品に配賦する方法（復習）



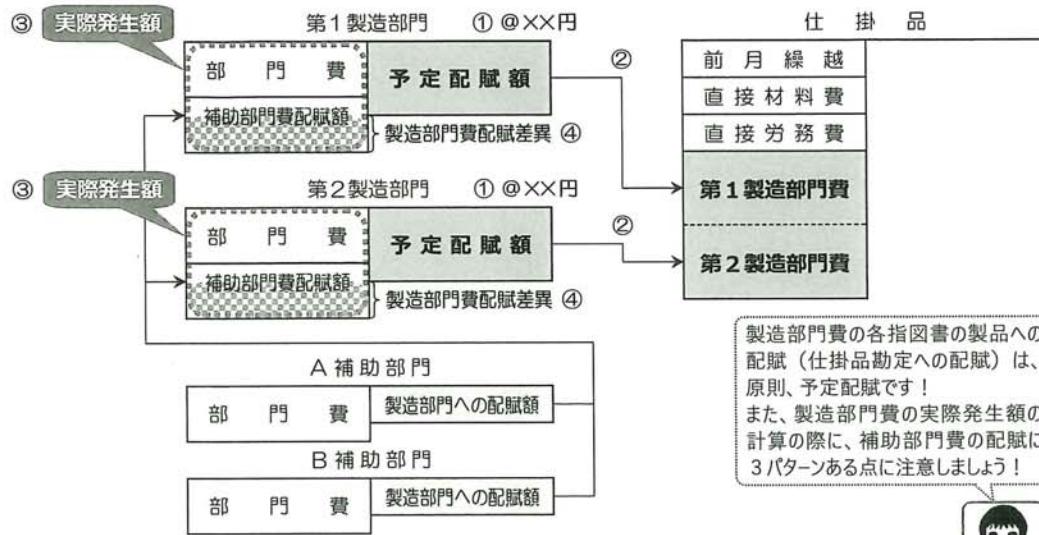
〈予定配賦の手順〉



2. 部門別配賦 … 製造部門ごとに配賦基準を変えて各製品に配賦する方法



《部門別製造間接費の予定配賦（製造部門費の製品への配賦）》(P.137)



《部門別予定配賦の手順》(P.138)

期首 ① 部門別予定配賦率の算定（製造部門）

年間（または月間）の予算データにより、予算部門費配賦表を作成

金額は必ず
予算額で！

第1次集計 ⇒ 第2次集計 ⇒ 予定配賦率の算定

直接配賦法
相互配賦法 単一基準
階梯式配賦法 複数基準

$$\text{予定配賦率} = \frac{\text{製造部門費予算額}}{\text{基準操業度}}$$

毎月 ② 部門別予定配賦額の計算（製造部門）

部門別予定配賦額 = 各製造部門の予定配賦率 × 各製造部門の実際操業度

③ 部門別実際発生額の集計（製造部門）

当月の実績データにより、実際部門費配賦表を作成

第1次集計 ⇒ 第2次集計 ⇒ 實際発生額の集計

直接配賦法 単一基準
相互配賦法 複数基準
階梯式配賦法

実際配賦
予定配賦
予算許容額配賦

製造部門に配賦する補助部門の金額については、実際配賦・予定配賦・予算許容額配賦がある！

④ 各部門の原価差異の把握と分析

製造部門：予算差異・操業度差異

補助部門：実際配賦のとき ⇒ 差異なし

予定配賦のとき ⇒ 予算差異・操業度差異

予算許容額配賦のとき ⇒ 予算差異のみ（操業度差異はない）

補助部門を何で配賦するかによって、把握される差異が変わってきます！

⇒ (P.139) 設例 9-5

設例9-5 (P.139)

1. 予算部門費配賦表

部 門 費 配 賦 表						(単位:円)
摘要	製 造 部 門				補 助 部 門	
	切 削 部 門		組 立 部 門		動 力 部 門	
部 門 費	変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費
動 力 部 門 費						
製 造 部 門 費						
基 準 操 業 度	2,000 時間		1,500 時間			
予 定 配 賦 率	@ 円	@ 円	@ 円	@ 円		
	@ 円		@ 円			

2. 実際部門費配賦表

部 門 費 配 賦 表						(単位:円)
摘要	製 造 部 門				補 助 部 門	
	切 削 部 門		組 立 部 門		動 力 部 門	
部 門 費	変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費
動 力 部 門 費						
製 造 部 門 費						

3. 勘定記入と差異分析 (注) 差異分析の〔 〕内には借方または貸方と記入すること。

切削部門

実際1次集計費	522,960	仕掛品()
動力部門()	總 差 異()	
()	()	

切削部門の差異分析

変動費予算差異= 円 []
 固定費予算差異= 円 []
 操業度差異= 円 []

組立部門

実際1次集計費	426,640	仕掛品()
動力部門()	總 差 異()	
()	()	

組立部門の差異分析

変動費予算差異= 円 []
 固定費予算差異= 円 []
 操業度差異= 円 []

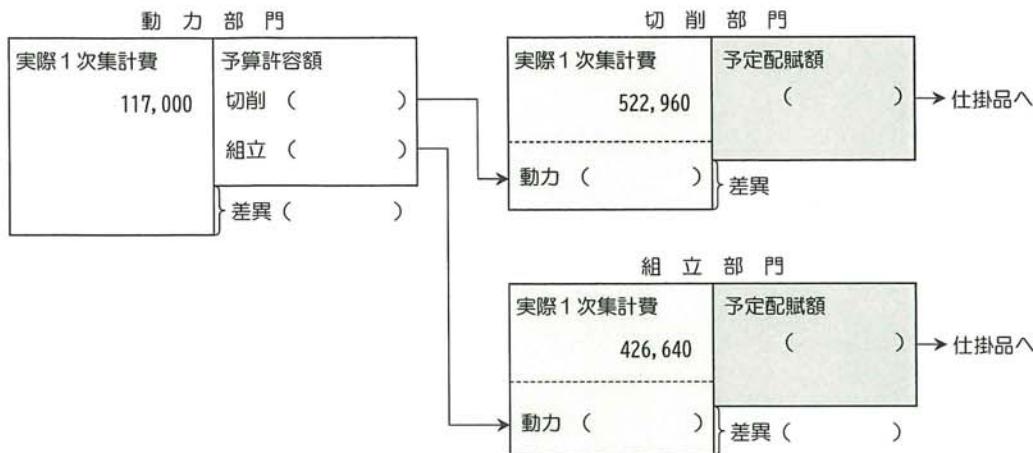
動力部門

実際1次集計費	117,000	切削部門()
		組立部門()
		總 差 異()
	117,000	117,000

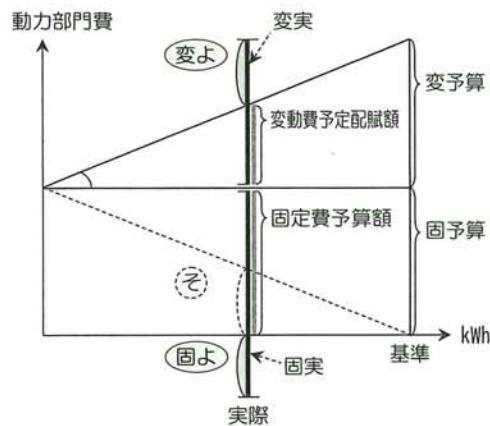
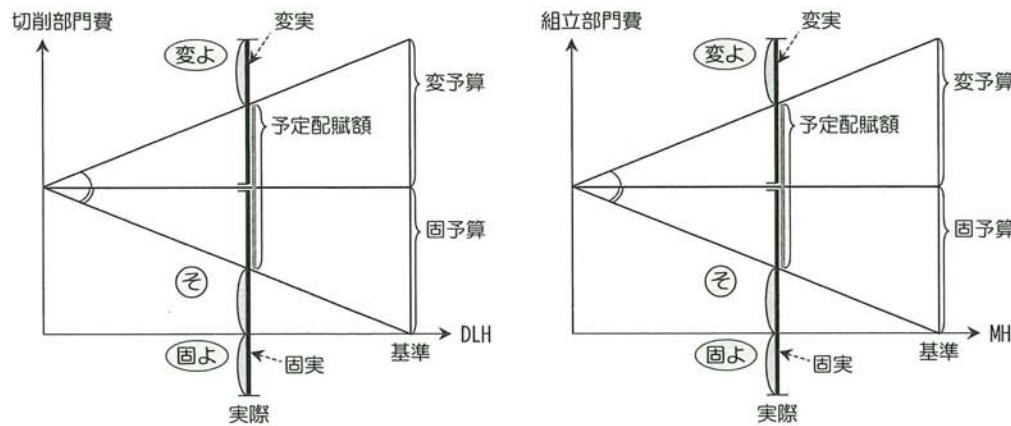
動力部門の差異分析

変動費予算差異= 円 []
 固定費予算差異= 円 []
 操業度差異= 円 []

〈勘定連絡図〉



〈差異分析〉



設例 9-6 補助部門費が複数あるケース (P.144)

(注) 差異分析の〔 〕内には借方または貸方と記入すること。なお、不要な場合は金額欄および〔 〕に「—」を記入すること(単位:円)。

切削部門	
実際1次集計費	402,000
事務部門費 ()	仕掛品 ()
修繕部門費 ()	総差異 ()
動力部門費 ()	
()	()

切削部門の差異分析

変動費予算差異 = _____ 円 []
 固定費予算差異 = _____ 円 []
 操業度差異 = _____ 円 []

組立部門	
実際1次集計費	329,000
事務部門費 ()	仕掛品 ()
修繕部門費 ()	総差異 ()
動力部門費 ()	
()	()

組立部門の差異分析

変動費予算差異 = _____ 円 []
 固定費予算差異 = _____ 円 []
 操業度差異 = _____ 円 []

動力部門	
実際1次集計費	117,000
事務部門費 ()	切削部門 ()
修繕部門費 ()	組立部門 ()
()	総差異 ()

動力部門の差異分析

変動費予算差異 = _____ 円 []
 固定費予算差異 = _____ 円 []
 操業度差異 = _____ 円 []

修繕部門	
実際1次集計費	144,000
事務部門費 ()	切削部門 ()
	組立部門 ()
	動力部門 ()
	総差異 ()
()	()

修繕部門の差異分析

変動費予算差異 = _____ 円 []
 固定費予算差異 = _____ 円 []
 操業度差異 = _____ 円 []

事務部門	
実際1次集計費	108,000
	切削部門 ()
	組立部門 ()
	動力部門 ()
	修繕部門 ()
	総差異 ()
108,000	108,000

事務部門の差異分析

変動費予算差異 = _____ 円 []
 固定費予算差異 = _____ 円 []
 操業度差異 = _____ 円 []

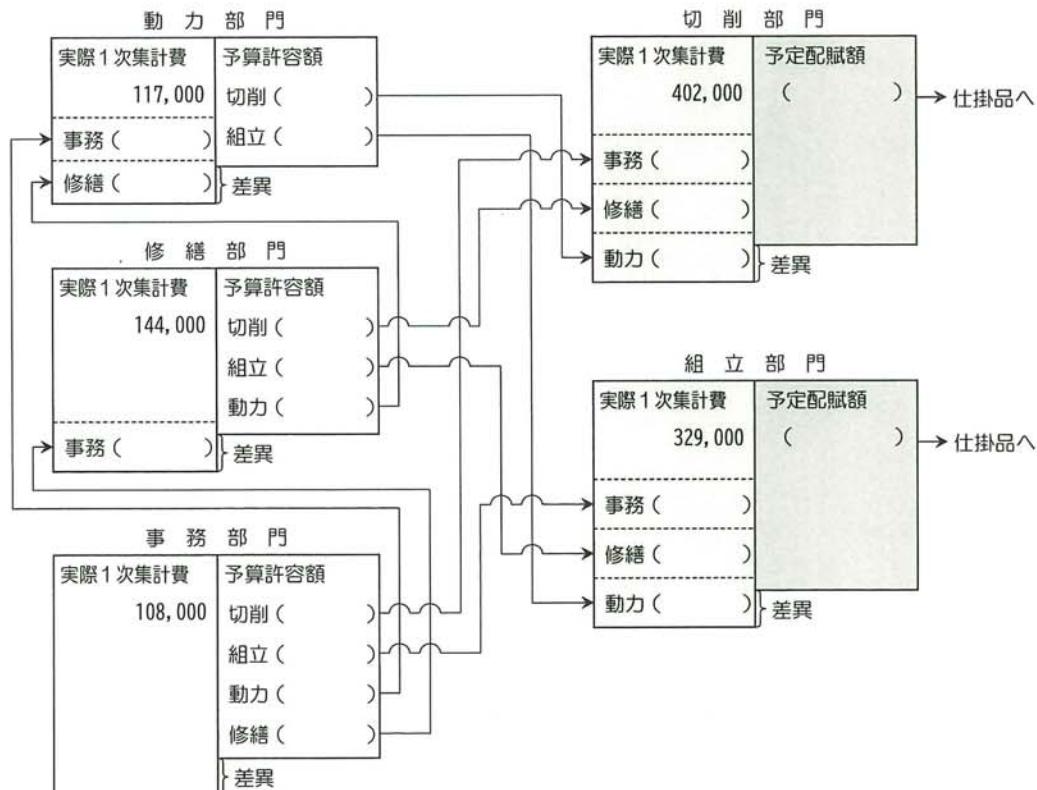
1. 予算部門費配賦表

部 門 費	切削部門		組立部門		動力部門		修繕部門		事務部門	
	V	F	V	F	V	F	V	F	V	F
部 門 費	155,000	197,000	129,000	176,000	46,000	61,000	70,000	66,000	100,000	
事務部門費										
修繕部門費										
動力部門費										
製造部門費										
基準操業度	2,000 時間		1,500 時間							
予定配賦率	@ 円	@ 円	@ 円	@ 円						
	@ 円	@ 円								

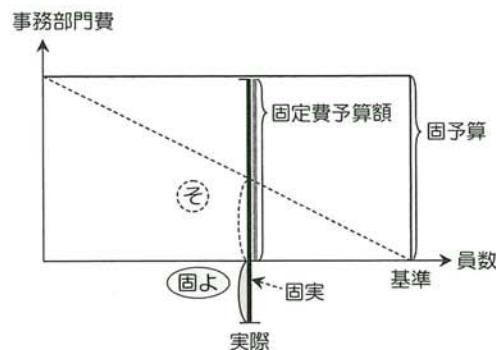
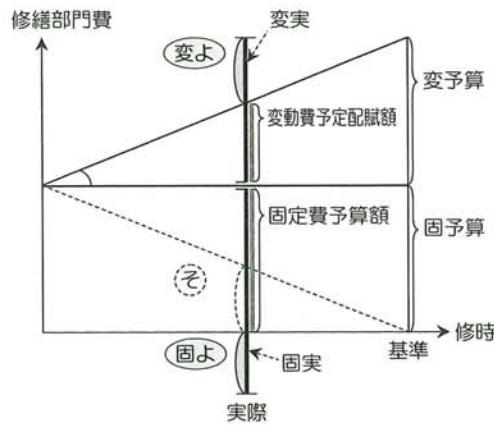
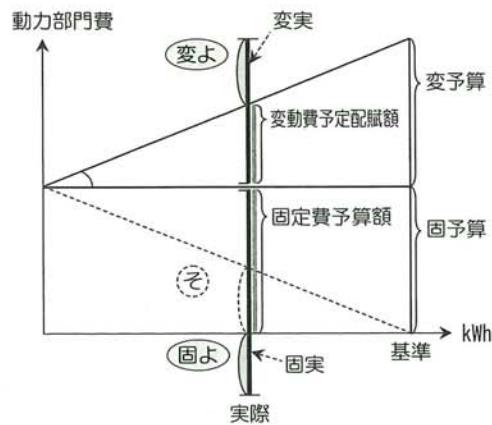
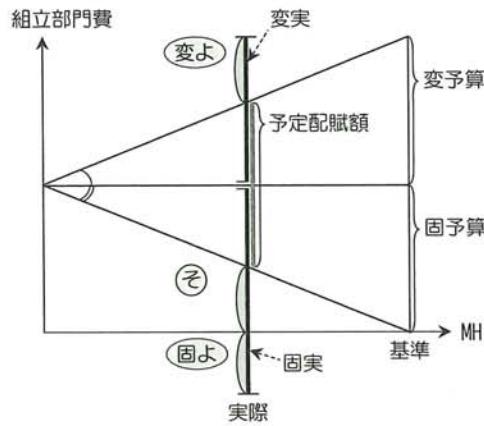
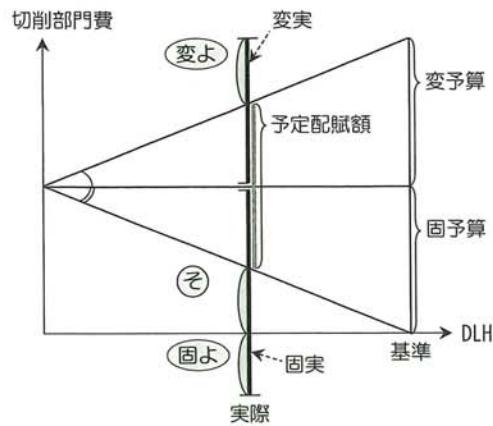
2. 実際部門費配賦表

部 門 費	切削部門		組立部門		動力部門		修繕部門		事務部門	
	V	F	V	F	V	F	V	F	V	F
部 門 費	180,000	222,000	145,000	184,000	54,000	63,000	74,000	70,000	108,000	
事務部門費										
修繕部門費										
動力部門費										
製造部門費										

3. 勘定連絡図



4. 各部門の差異分析



【トレーニング】 AA：過去問の類題、A：重要、B：基本、C：参考、D：不要

テーマ9 原価の部門別計算(II)

	論 点	テキスト	過去問の類題	標準解答時間
9-4 A	部門別予定配賦・責任会計	設例9-5		40分
9-5 AA	部門別予定配賦	設例9-6	第74回(工簿)	35分
9-6 AA	部門別予定配賦		第80回(工簿)	25分

Q&A

Q 問題9-4 [設問2]で、「波線部①の方法によった場合（実際発生額を単一基準配賦法によって配賦する方法）」とあるのに、なぜ「(1)…予定配賦率および予定配賦額を求めなさい」と問われているの？

A 「補助部門費の製造部門への配賦（第2次集計）」と「製造部門費の製品への配賦」を混同していませんか？

波線部①は「補助部門費（動力部門費）の実際発生額を単一基準配賦法によって配賦する方法」とあるので、『第2次集計』の指示です。一方、[設問2] (1) は「切削部門費の製品への予定配賦率および予定配賦額を求めなさい」とあるので、『製造部門費の製品への配賦』が問われているのです。よって、本設問は、「動力部門費を切削部門へ実際配賦した場合、切削部門の予定配賦率を求めなさい」ということです。

部門別計算では、「自分がいま、どこの計算をしているのか？」とよく迷子になります。そんな時は、しっかりと勘定連絡図を思い出して、『第2次集計』をしているのか、『製造部門費の製品への配賦』をしているのかを、ゴッチャにしないように注意しましょう！

【過去問】 第146回(工簿) 第158回(工簿) 第1問

テーマ10 個別原価計算における仕損 (P.150 ~ P.167)

仕損 … 一定の品質や規格を満たさない失敗作（不合格品）のこと

⇨ 個別原価計算においては、仕損のためのコスト（仕損費）を製造指図書に集計して計算する。

個別原価計算における仕損については、「計算」と「処理」を分けて考えていく。

すなわち、まずは「計算」で仕損費の金額を決定し、その後で仕損費の金額をどのように「処理」するかを考える。そのため、「計算」と「処理」を切り離して考えるようにしましょう。

1. 仕損費の計算 (P.150) … いくらをもって（どの製造指図書に集計された金額をもって）仕損費とするか？

・**補修可能** … _____ に集計された原価 ⇨ (P.151) **設例10-1**

・**代品製造**

全部	…	_____	に集計された原価 - 仕損品評価額 ⇨ (P.152) 設例10-2
一部	…	_____	に集計された原価 - 仕損品評価額 ⇨ (P.153) 設例10-3

(注) 仕損品評価額は、仕損費となる製造指図書から控除する。

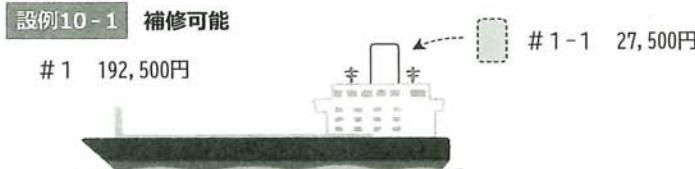
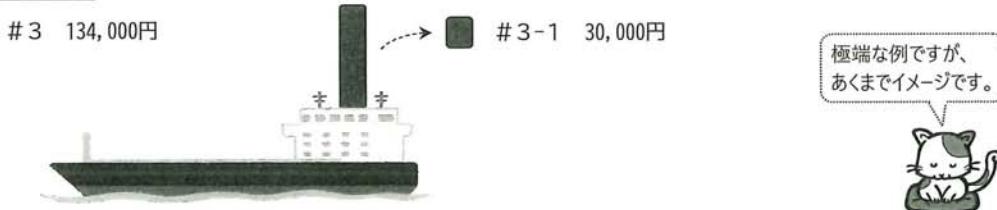
・**軽微な仕損** … 仕損費を計算せず、仕損品評価額を製造指図書から控除

補修可能	(仕 損 費) ×××	(仕 掛 品*) ×××
------	------------------	-------------------

代品製造	(仕 損 費) ×××	(仕 掛 品*) ×××
	(仕 損 品) ××	

軽微な仕損	(仕 損 品) ××	(仕 掛 品*) ××
-------	-----------------	------------------

※ 仕損費は製造指図書に集計しているため、その金額は仕掛品勘定に記入されている。

《イメージ図》**設例10-2 代品製造・全部****設例10-3 代品製造・一部**

2. 仕損費の処理 (P.156) … 仕損費をどの勘定に振り替えるか?

・正常仕損 $\left\{ \begin{array}{l} \text{直接経費処理} \Rightarrow \dots \\ \text{間接経費処理} \Rightarrow \dots \end{array} \right.$

・異常仕損 … 非原価処理 $\Rightarrow \dots$ (P/L上は営業外費用または特別損失)

直接経費処理	(仕掛品)	×××	(仕損費)	×××
間接経費処理	(〇〇部門費)	×××	(仕損費)	×××
異常仕損	(損益)	×××	(仕損費)	×××

※ 直接経費処理と間接経費処理の問題指示

直接経費処理 : 「製造指図書No.××の製造に特有の加工作業により発生したものである」

「当該指図書の厳密な仕様のために生じたものである」

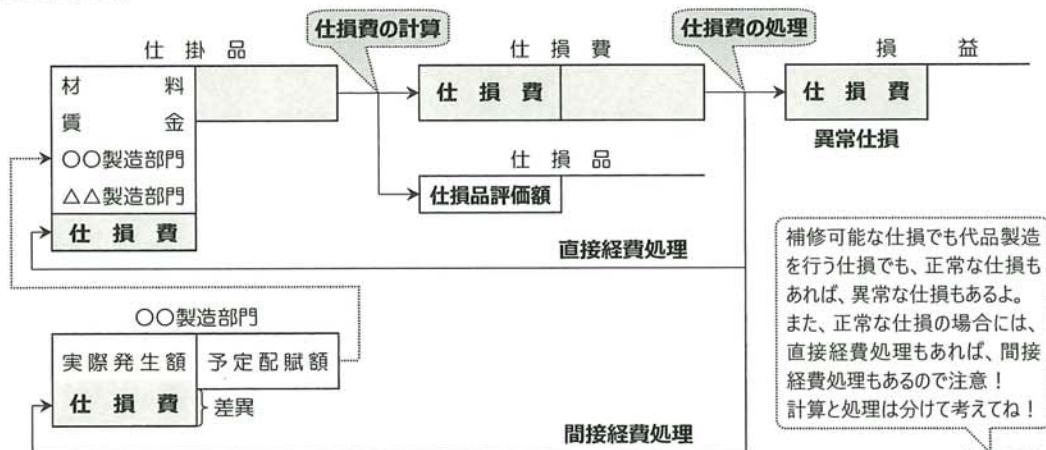
「当工場の製造間接費予算には正常仕損費予算が計上されていない（含まれていない）」など

間接経費処理 : 「〇〇製造部門に固有の原因で発生したものである」

「当該指図書に固有のものではない（他の指図書にも関係させる）」

「当工場の製造間接費予算には正常仕損費予算が計上されている（含まれている）」など

《勘定連絡図》



ところで、なんで“経費処理”なの？

経常的・不可避的に発生する仕損は正常仕損として処理するが、その正常仕損には「直接経費処理」と「間接経費処理」がある。ところで、なぜ“経費処理”なのでしょうか？

これはテーマ6の経費会計のときに、「材料棚卸減耗費は発生経費である！」と学習したが、それと同じで、「正常仕損費は発生経費」なのである。つまり失敗作が発生してしまったので“発生経費”となる。さらに、経費の中でも特に“複合経費”といわれるものである（⇒ P.76 の 研究 参照）。



《製造指図書別原価計算表の書き方》

(1) 直接経費処理 (#1と#1-1) ⇨ 設例 10-1

計算 補修可能のため、補修指図書 (#1-1) に集計された金額が仕損費になる。

処理 #1 の製品に特有の加工作業に起因して発生したものである。⇨ 直接経費処理

	#1	#1-1
(省略)	(省略)	(省略)
計	192,500	27,500
仕損品評価額	—	—
仕損費	27,500	△27,500
合計	220,000	0
備考	完 成	#1へ

仕損となる指図書の #1-1 の合計を 0 (ゼロ) にするため、仕損費の行で “△27,500” を計上し [計算]、そのまま #1 の仕損費の行に書き移す (移記する) [処理]。

補修可能だから、
評価額はなしです！

(2) 間接経費処理 (#3と#3-1) ⇨ 設例 10-3

計算 一部仕損のため、代品製造指図書 (#3-1) に集計された金額が仕損費になる。

処理 第2製造部門に固有の原因で発生したものである。⇨ 間接経費処理

	#3	#3-1
(省略)	(省略)	(省略)
計	134,000	30,000
仕損品評価額	—	△9,000
仕損費	—	△21,000
合計	134,000	0
備考	仕掛中	第2製造部門へ

仕損となる指図書の #3-1 の合計を 0 (ゼロ) にするため、仕損費の行で “△21,000” を計上し [計算]、仕損が発生した第2製造部門に振り替える [処理]。
(#3には振り替えないこと！)

(3) 非原価処理 (#2と#2-1) ⇨ 設例 10-2

計算 全部仕損のため、元の製造指図書 (#2) に集計された金額が仕損費になる。

処理 通常起こりえない作業上の事故により生じたものである。⇨ 非原価処理

	#2	#2-1
(省略)	(省略)	(省略)
計	207,000	215,000
仕損品評価額	△ 31,000	—
仕損費	△176,000	—
合計	0	215,000
備考	損益へ	完 成

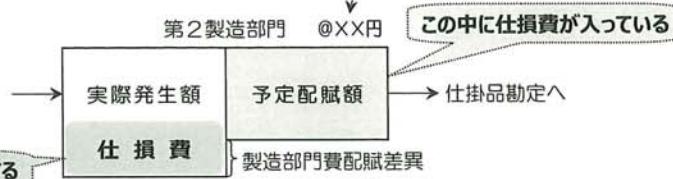
仕損となる指図書の #2 の合計を 0 (ゼロ) にするため、仕損費の行で “△176,000” を計上し [計算]、損益勘定に振り替える [処理]。
(#2-1には振り替えないこと！)

補足 間接経費処理法について (P.157)

「第2製造部門の製造間接費予算にはあらかじめ仕損費の予算額が計上されている」の指示

$$\text{第2製造部門の予定配賦率} = \frac{\text{製造部門費予算額} + \text{仕損費予算額}}{\text{基準操業度}}$$

$$\text{第2製造部門の予定配賦額} = \text{予定配賦率} \times \text{実際操業度}$$



3. 作業屑の処理 (P.159)

作業屑は、売却価値または利用価値（作業屑評価額）を原価から控除する処理を行う。 ⇔ 作業屑a/c (資産)

(1) 作業屑評価額を発生した製造指図書の“製造原価”または“直接材料費”から控除

(作業屑)	××	(仕掛品)	××
-------	----	-------	----

〈製造原価から控除〉

製造指図書	
直 接 材 料 費	××
直 接 労 務 費	××
直 接 経 費	××
製 造 間 接 費	××
小 計	××
作業屑評価額	△ ××
合 計	××

〈直接材料費から控除〉

製造指図書	
直 接 材 料 費	××
(作業屑評価額	△ ×)
直 接 労 務 費	××
直 接 経 費	××
製 造 間 接 費	××
合 計	××

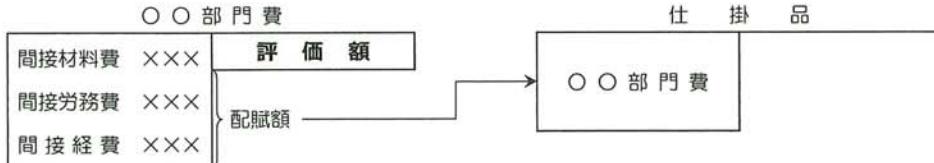
(注) 直接材料費には直接控除した金額を計上する。

(2) 作業屑評価額を発生部門の部門費（製造間接費）から控除（原則）

(作業屑)	××	(○○部門費)	××
-------	----	---------	----

または

(製造間接費)		××
---------	--	----



(3) 軽微な場合は、売却時に売却額をもって雑収入または雑益で処理する。

(現金など)	××	(雑収入)	××
--------	----	-------	----

各自確認！

⇒ (P.160) 設例10-4

【トレーニング】

AA：過去問の類題、A：重要、B：基本、C：参考、D：不要

テーマ10 個別原価計算における仕損

		論 点	テキスト	過去問の類題	標準解答時間
10-1	B	勘定記入（仕損費勘定の有無）	設例10-4 設例10-5		10分
10-2	B	勘定記入			10分
10-3	A	原価計算表作成と勘定記入			15分
10-4	A	原価計算表作成と勘定記入	設例9-5 設例10-5	第116回（工簿）	20分
10-5	AA	原価計算表作成と勘定記入			30分
10-6	AA	直接経費処理と間接経費処理（勘定記入）	設例10-5	第116回（工簿）	20分

【過去問】 第147回（工簿）問1 ロット別個別原価計算（問2・問3は「品質原価計算」なので保留）

【原価計算基準】『基準31』個別原価計算

『基準35』仕損の計算および処理

『基準36』作業屑の処理

【次回のアドバンス講義のためのベーシックの復習】

Advance II 第1回

〈学習内容〉 **テーマ4 組別・等級別総合原価計算****テーマ2 仕損・減損が生じる場合の計算**異常仕損： **設例2-1**度外視法： **設例2-2** ⇔ **設例2-3** ⇔ **設例2-4** ⇔ **設例2-5** ⇔ **ミニテスト第7回**非度外視法： **設例2-7** ⇔ **設例2-8** ⇔ **ミニテスト第8回****テーマ3 工程別総合原価計算**累加法： **設例3-1** ⇔ **ミニテスト第9回** ⇔ **設例3-3** (加工費工程別計算)

問題10-6 ★★★**第116回（工業簿記）類題**

次の問い合わせにある製造指図書#20と#30のそれぞれについて、解答用紙の各勘定に適切な金額を記入するとともに、正常仕損費を計算しなさい。なお、いずれも代品の製造は行っていない。

(注) 解答の各勘定について、必ずしもすべての()内に金額を記入する必要はない。問題文に明示された条件に適切な記入を行うこと(単位:円)。

問1 製造指図書#20の製品量は20,000個であったが、完成品検査で1,500個が不合格となった。仕損は当該指図書に固有のものでなく発生量も正常であった。当該指図書に集計された直接労務費は300,000円であった。製造間接費は直接材料費基準で予定配賦(配賦率250%)している。仕損品は材料として再利用可能(評価額1個25円)であり、材料倉庫に保管した。なお、当工場の製造間接費予算には正常仕損費予算が含まれている。

材 料		仕 挂 品		正常仕損費 =
1,200,000	()	()	()	() 円
()		300,000	()	
製 造 間 接 費		製 品		
()	1,400,000	()	()	

問2 製造指図書#30は、最新製品の製造指図書であり、特に良質の材料を使用し加工も非常に難しい。正常な状態で加工を行ったが、完成品1,800個分の材料を投入し、完成品検査に合格したのは1,250個であった。当該指図書に集計された直接材料費と直接労務費はそれぞれ370,000円と280,000円であった。製造間接費は直接労務費基準で予定配賦(配賦率250%)している。仕損品は材料として再利用可能(評価額1個60円)であり、材料倉庫に保管した。なお、当工場の製造間接費予算に仕損費予算は含まれていない。

材 料		仕 挂 品		正常仕損費 =
1,200,000	370,000	370,000	()	() 円
()		280,000	()	
		()		
製 造 間 接 費		製 品		
()	()	()	()	

1級 学習進度表 【1級アドバンス講義】**2023年11月合格目標 〔後期日程〕****1級アドバンス合格本科生 学習進度表****2023年11月合格目標**

※ 1級アドバンス合格本科生のカリキュラムには、上級演習も含まれます。

※ 下記のカリキュラムは、今後変更となる場合もございます。

1級 商業簿記・会計学Ⅰ（全2回：合格テキストVer.17.0）

標準 学習進度	テーマ	主な学習論点	添削問題 出題範囲
第1回	04 収益の認識基準	収益の額の算定 商品券	
第2回	05 工事契約	工事契約に係る収益の認識 工事損失引当金	基礎演習 第4回
	06 割賦販売	割賦販売の会計処理 回収不能高と戻り商品	

1級 商業簿記・会計学Ⅱ（全2回：合格テキストVer.17.0）

標準 学習進度	テーマ	主な学習論点	添削問題 出題範囲
第1回	06 デリバティブ取引	先物取引、ヘッジ会計、為替予約	基礎演習
第2回	14 純資産（資本）	オプション取引、金利スワップ取引 新株予約権、新株予約権付社債	第4回

1級 商業簿記・会計学Ⅲ（全8回：合格テキストVer.17.0）

標準 学習進度	テーマ	主な学習論点	添削問題 出題範囲
第1回	05 連結会計（III）	基礎演習 第4回 支配獲得までの段階取得、追加取得 一部売却	
第2回	06 連結会計（IV）	成果連結（期末棚卸資産、貸倒引当金まで） 成果連結（期首棚卸資産、貸倒引当金から）	
第3回	07 連結会計（V）	連結包括利益計算書 退職給付会計と連結会計	
第4回	08 連結会計（VI）	持分法	
第5回	09 株式交換・会社の分割など	株式交換 株式移転、会社の分割	基礎演習 第5回
第6回	10 外貨建財務諸表項目	在外支店の財務諸表項目 在外子会社等の財務諸表項目	
第7回	11 キャッシュ・フロー計算書	個別キャッシュ・フロー計算書（直接法）	
第8回		基礎演習 第5回	
		個別キャッシュ・フロー計算書（間接法） 連結キャッシュ・フロー計算書	

1級商会 応用講義演習（全2回）

標準 学習進度	テーマ	主な学習論点
第1回		
第2回		※ 応用講義演習については、別冊子を使用して講義を行います。

1級 工業簿記・原価計算II (全4回: 合格テキストVer.7.0)

標準 学習進度	テーマ	主な学習論点	添削問題 出題範囲
第1回	04 組別・等級別総合原価計算	1 組別総合原価計算 2 等級別総合原価計算	基礎演習 第4回
第2回	02 仕損・減損が生じる場合の計算	7 正常減損率が安定している場合の計算	
基礎演習 第4回			
第3回	06 標準原価計算の基礎	4 その他の計算形態 (設例6-6)	基礎演習 第5回
	07 標準原価計算における仕損・減損	1 仕損や減損が発生する場合の標準原価計算 (設例7-5、月初仕掛品も仕損費を負担する場合)	
第4回	08 原価差異の会計処理	1 原価差異の会計処理 2 原価差異の会計処理方法	

※ 第1回と第2回のテーマの順番が前後しています。ご注意ください。

1級 工業簿記・原価計算III (全9回: 合格テキストVer.7.0)

標準 学習進度	テーマ	主な学習論点	添削問題 出題範囲	
第1回	04 企業予算の編成	1 企業予算総論 2 基本予算の編成手続	基礎演習 第5回	
	05 原価・営業量・利益関係の分析	2 CVP分析補足 (価格決定) 3 共通する制約条件が2つ以上の場合の最適セールス・ミックスの決定		
第2回	06 最適セールス・ミックスの決定	1 セグメント別収益性の測定 2 資本コスト率の計算 3 業績測定の指標 4 事業部の業績測定		
第3回	07 事業部の業績測定	1 予算実績差異分析とは 2 予算実績差異分析の分類 3 予算実績差異分析の計算手法 4 セグメント別の予算実績差異分析	基礎演習 第5回	
		5 内部振替価格		
第4回	08 予算実績差異分析	3 設備投資にともなうキャッシュ・フローの予測 2 設備投資の意思決定の計算例 (総合問題) (1) 新規大規模投資におけるキャッシュ・フローの予測 (3) 拡張投資におけるキャッシュ・フローの予測 (2) 取替投資におけるキャッシュ・フローの予測 (4) 耐用年数が異なる投資案の比較	基礎演習 第5回	
第5回	07 事業部の業績測定	1 企業環境の激変に対応する新しい原価計算 2 ライフサイクル・コスティング 3 原価企画・原価維持・原価改善 4 品質原価計算 5 活動基準原価計算		
第6回	11 設備投資の意思決定	基礎演習 第5回		
第7回		基礎演習 第5回		
第8回	12 戦略の策定と遂行のための原価計算	基礎演習 第5回		
第9回		基礎演習 第5回		

※ 第4回と第5回のテーマの順番が前後しています。ご注意ください。

※ 第6回と第7回のテーマの順番が(一部)前後しています。ご注意ください。



003-4182-1002-10

1級工原合格テキスト・合格トレーニング Ver. 7.0 正誤表

簿記検定正誤表

科目 1級 工業簿記・原価計算
合格テキスト・合格トレーニング Ver.7.0

1級工原トレーニングの訂正事項は次のとおりです。

ご迷惑をおかけして申し訳ございません。

恐れ入りますが、以下の正誤をご確認のうえ、ご利用いただきますよう、お願ひいたします。

なお、増刷の場合は、すでに下記正誤が反映されている場合もございます。ご了承ください。

【 合格トレーニング II (Ver. 7.0) 】

頁	訂正箇所	誤	正
別冊① 49 ページ	問題 3-4 解答への道	2. 第2工程の計算（先入先出法） (2) 加工費の計算のボックス図 仕掛品一直接材料費 月初 12,000 個 完成 55,000 個 ⋮ ⋮	仕掛品一加工費 月初 12,000 個 完成 55,000 個 ⋮ ⋮
別冊① (69) (70) ページ	問題 3-10 解答への道	2. 切削工程の計算 (1)(2)のボックス図の横 3行目 正常減損： 3. 仕上工程の計算 (3)のボックス図の横 3行目 正常減損：	正常仕損： 正常仕損：
別冊① (184) ページ	問題 6-4 解答への道	1. 生産データの整理のボックス図 仕掛品 月初 150 個 完成 2,600 個 (200 個) ⋮ ⋮	仕掛品 月初 150 個 完成 2,600 個 (120 個) ⋮ ⋮
別冊① (196) ページ	問題 6-9 解答への道 (下から 5 行目)	予算差異： 11,040,000 円 - 11,086,000 円 = (-) 460,000 円 [借方]	予算差異： 11,040,000 円 - 11,086,000 円 = (-) 46,000 円 [借方]

正誤表は、TAC WEB SCHOOLのマイページ上にて掲載しております。ご確認をお願いいたします。



003-4182-1002-10

1級工原合格テキスト・合格トレーニング Ver. 7.0 正誤表

【 合格トレーニングⅢ (Ver. 7.0) 】

頁	訂正個所	誤	正																																
別冊① (150) ページ	問題 8-5 解答への道	<p>4. 変動費差異の分析 (2) 直接労務費差異の図</p> <table> <tr> <td>実際@1,140 円</td> <td>〈製品 α〉</td> </tr> <tr> <td>実際@1,100 円</td> <td>貢率差異</td> </tr> <tr> <td></td> <td> </td> </tr> <tr> <td></td> <td> </td> </tr> </table> <table> <tr> <td>実際@1,250 円</td> <td>〈製品 β〉</td> </tr> <tr> <td>実際@1,200 円</td> <td>貢率差異</td> </tr> <tr> <td></td> <td> </td> </tr> <tr> <td></td> <td> </td> </tr> </table>	実際@1,140 円	〈製品 α 〉	実際@1,100 円	貢率差異					実際@1,250 円	〈製品 β 〉	実際@1,200 円	貢率差異					<table> <tr> <td>実際@1,140 円</td> <td>〈製品 α〉</td> </tr> <tr> <td>標準@1,100 円</td> <td>貢率差異</td> </tr> <tr> <td></td> <td> </td> </tr> <tr> <td></td> <td> </td> </tr> </table> <table> <tr> <td>実際@1,250 円</td> <td>〈製品 β〉</td> </tr> <tr> <td>標準@1,200 円</td> <td>貢率差異</td> </tr> <tr> <td></td> <td> </td> </tr> <tr> <td></td> <td> </td> </tr> </table>	実際@1,140 円	〈製品 α 〉	標準@1,100 円	貢率差異					実際@1,250 円	〈製品 β 〉	標準@1,200 円	貢率差異				
実際@1,140 円	〈製品 α 〉																																		
実際@1,100 円	貢率差異																																		
実際@1,250 円	〈製品 β 〉																																		
実際@1,200 円	貢率差異																																		
実際@1,140 円	〈製品 α 〉																																		
標準@1,100 円	貢率差異																																		
実際@1,250 円	〈製品 β 〉																																		
標準@1,200 円	貢率差異																																		
別冊① (263) ページ	問題 11-24 解答 問 1 (4)																																		
別冊② 77 ペー ジ	問題 11-24 解答用紙 問 1 (4)	(4) 製造 Y の製造・販売を開始した後に、…	(4) 製品 Y の製造・販売を開始した後に、…																																